

(1) 全体の総括と体制

■新たな段階へ移行する準備の年

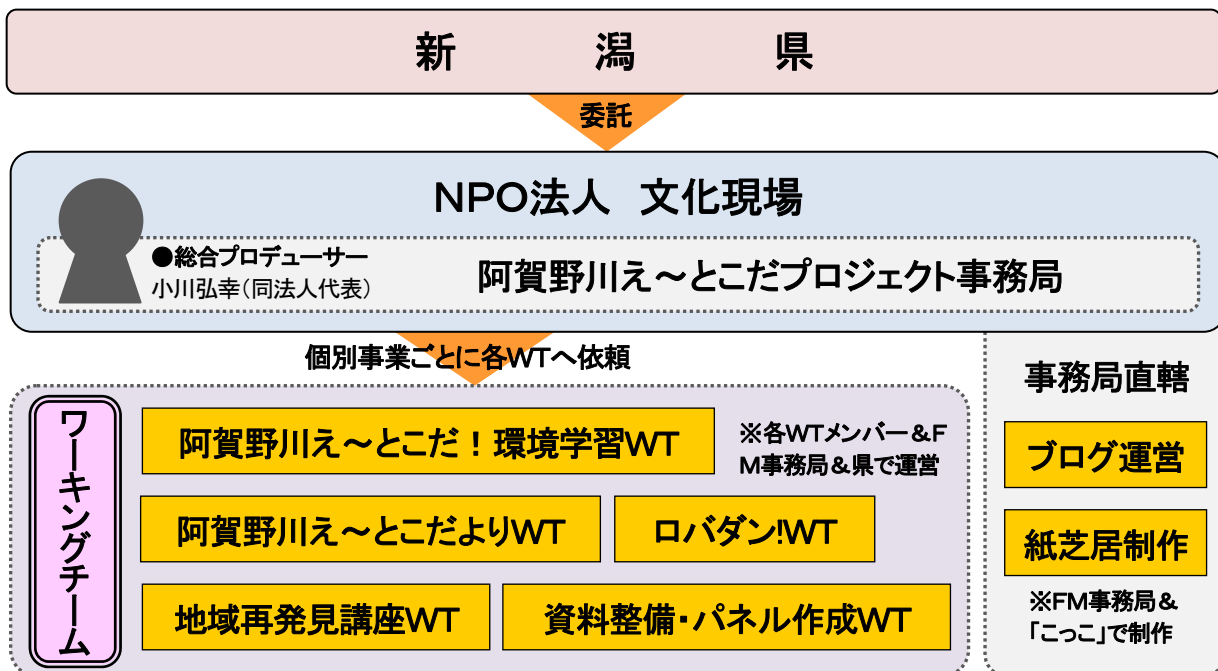
FM事業の枠組みが完成した昨年度をもって、FM事業の方向性を検討してきた「推進委員会」は役割を終えたと判断され解散した。そして、「もやい直し」の継続を目指して、FM事業の受け皿となるための団体の検討や設立準備が進められた。

■「もやい直し」を振り返る初のフォーラム開催

推進委員会は解散したが、個別事業ごとに編成されたワーキングチーム(WT)は存続し、引き続き総合プロデューサーの統轄のもと、各WTが担当事業ごとに業務支援していく体制となった。年度末には、「資料整備」と「ロバダン！」を通して、これまでのFM事業を「もやい直し」の観点から振り返る初のフォーラムを、WTのメンバーを中心としたこれまでの関係者や、教育・行政の関係者と共に開催した。



フォーラム(第1回)の様子



(2) 当該年度の成果や経緯など

■当該年度の所感 ～ 新たな段階に向けて

「真の阿賀野川ブランド」と「環境学習」

FM事業も開始から数年が経過し、様々な個別事業が功を奏し始めた結果、「もやい直し」の成果が少しずつ表れ始めたと認識している。



パネル巡回展の様子

その好例が、昭和電工の歴史を光と影の視点から描き出したパネル巡回展の開催である。

当該年度のパネル展示は新潟水俣病を真正面から取り扱ったにも関わらず、昨年度を上回る阿賀町内の10旅館が展示会場として名乗りを上げてくれた。さらに、流域の人々から資料提供や紙芝居の貸出依頼が増えるなど、「もやい直し」が着実に進展している手ごたえが感じられる。

一方で、流域の人々からは、自分たちとFM事業の接点をなかなか見出せないのご意見も頂いた。また、流域に溢れる「阿賀の宝もん」の数々も、現状では新潟水俣病が思い出されるから、「阿賀野川ブランド」を冠して堂々と誇れずにいると打ち明ける方もいらっしやった。

そうした流域住民のご意見や思いを踏まえて、FM事業では、流域が新潟水俣病に向き合い乗り越えた末に確立される「真の阿賀野川ブランド」という考え方こそ、流域の人々が今後目指すべき方向性として提案し、これに共感いただいた流域の人々や団体と様々な連携を図りつつある。

さらに、流域の人々とも協働できる具体的な取組として、全国の方々から阿賀野川流域を訪れてもらい、ここでしか体験できない環境学習の機会を提供していく予定である。

こうした事業展開の積重ねを、今後、FM事業を持続可能にする仕組みを構築する際の基盤にしていきたいと考えている。



地域再発見講座(第6回)の様子



環境学習フィールドワークの様子



一般社団法人あがのがわ環境学舎
パンフレット

■ 当該年度の成果

平成22年度の事業成果は下記のとおりである。

- 環境学習理念プログラムづくり
- 環境学習パンフレット、流域環境団体カタログ制作
- 鹿瀬地域フィールドワークの実施
- パネル巡回展「鹿瀬・昭和電工・阿賀野川」開催
- 地域再発見講座(第3～6回)
- 「阿賀野川の忘れられた光と影」開催
- 紙芝居「新潟水俣病との出会い」制作
- 映像作品「ハーモニカ長屋から眺めた風景」制作
- 阿賀野川え～とこだより第3号・第4号発行
- 阿賀野川え～とこだ! ブログ運営・ホームページ制作
- 鹿瀬工場タイムスの資料整備を実施
- ロバダン!(炉端談義)の実施
- 阿賀野川え～とこだフォーラム第1回開催



映像作品「ハーモニカ長屋から眺めた風景」



紙芝居「新潟水俣病との出会い」

※ 下線を引いた事業は、一般社団法人あがのがわ環境学舎が実施(再委託)した事業

■当該年度の事業経緯

平成22年度の事業経緯は下記のとおりである。

